



EMORY

ROLLINS
SCHOOL OF
PUBLIC
HEALTH

公益財団法人
船井情報科学振興財団御中

2022年11月14日
エモリー大学 公衆衛生大学院 ポスドク3年目
塩田 佳代子

2016年度派遣奨学生 第15回 留学報告書

研究報告（2022年6月～2022年11月）

Lopman Lab における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の研究

報告期間中に1本の査読つき論文と1本の pre-print が出たのでご報告します。

1. Nelson KN, Siegler AJ, Sullivan PS, Bradley H, Hall E, Luisi N, Hipp-Ramsey P, Sanchez T, **Shioda K**, Lopman BA. Nationally Representative Social Contact Patterns among U.S. adults, August 2020-April 2021. *Epidemics* <https://doi.org/10.1016/j.epidem.2022.100605>
2. **Shioda K**, Chen Y, Collins MH, Lopman BA. Population-level relative effectiveness of the COVID-19 vaccines and the contribution of naturally acquired immunity. *medRxiv*. 2022 Oct 4（現在査読つき論文でリバイス中）

これらの論文が仕上がったところで私の COVID-19 のプロジェクトは一旦区切りがつきました。これは私が PI として初めて大きな（と言っても小さいですが）研究グラントをとってきて行った研究だったので、途中産休をとりましたが無事に期限以内にまとめられてほっとしています。このプロジェクトを通して Emory 大学の医学部、CDC、各州の保健当局と緊密に仕事をすることができ、大変貴重な経験を積ませて頂きました。今後はまた別のプロジェクトを計画しており、新年から取り組む予定です。ご支援いただき本当にありがとうございます。

Freeman Lab における人獣共通感染症（One Health）の研究

報告期間中に1本の pre-print が出たのでご報告します。

1. **Shioda K**, Brouwer A, Lamar F, Mucache HN, Levy K*, Freeman M*. Opportunities to interrupt transmission of enteropathogens of poultry origin in Maputo, Mozambique: a transmission model analysis. 2022 Oct 7. Available at SSRN: https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=4240630（現在ジャーナルの査読中）

また、3つの学会でこの研究について発表しました。

1. **K Shioda**, A Brouwer, F Lamar, HN Mucache, K Levy, M Freeman: Opportunities to interrupt transmission of enteropathogens of poultry origin in Maputo, Mozambique: a transmission model analysis – Accepted in-person poster presentation at the ASTMH 2022 Conference, Nov 2022
2. **K Shioda**, A Brouwer, F Lamar, HN Mucache, K Levy, M Freeman: Opportunities to mitigate infection of enteropathogens of poultry origin: a transmission model analysis – Accepted in-person poster presentation at the 2022 UNC Water and Health Conference: Research, Policy and Practice, Oct 2022
3. **K Shioda**, A Brouwer, F Lamar, K Levy, M Freeman: Mitigation opportunities to interrupt pediatric infection of enteropathogens of poultry origin in Maputo, Mozambique: a transmission model analysis – Poster presentation and 30-sec teaser at the 2022 EEID, Jun 2022

こちらのプロジェクトも 2020 年 9 月から取り組んでいましたが、これらの論文と学会発表をもって締めくくりになりました。ポストドク開始から 2 年以内に無事まとめられて嬉しく思っています。このプロジェクトではモザンビークの共同研究者たちはもちろん、University of Washington、University of Michigan の研究者らからたくさん学ぶことができ、新しい分野でネットワークを広げることができ、今後もずっと続いていく関係を作ることができました。プロジェクトが開始した当初は新しく学ぶことが多くなかなか思う通りに進まずに苦労したのですが、その時期を経て今は最も大事な研究テーマになっています。このプロジェクトを任せて頂くことができ、本当に嬉しく思っています。

研究グラント申請

NIH 研究資金申請

現在 NIH R01 グラント三つを key personnel として書いています。一つは今年 2 月に出したものの revision で、11 月に無事提出できました。残り 2 つは来年 6 月提出を目指して鋭意準備中です。どれもとても楽しみなプロジェクトで、全部採用されればありがたいですが、せめて一つだけでも…！と思っています。（とても採択率が低いので、実際一つだけでも通ればありがたいです。）

また、並行して NIH K01 プロポーザルも書いています。こちらはトレーニンググラントで、independent の研究者になる道のりをサポートしてくれるものです。R01 と違ってこれを書くのは私のみ（チーム戦ではなく個人戦）なので、少し孤独ですがなんとか来年 2 月提出を目指して頑張ります。

アカデミア就活

Faculty application

2022 年夏頃からアカデミア就活を始めました。家族の都合上、アメリカ国内のみで西海岸から東海岸まで幅広く出しています。書類選考は無事に突破して screening interview や day-long in-person job talk/zoom job talk に進んでいます。就活は大変だろうと漠然と思っていたのです

が、いざやってみるととても楽しいです。これまで誰も知り合いのいなかった大学の教授とお話しして「こんな素敵なところがあったんだ!」と気づくことができたり、普段はなかなかお話しできないような先生たちに自分の将来のビジョンについて話してフィードバックをもらうことができたり。自分を知ってもらうこの上ない良い機会だと思いました。また、それぞれの大学とのやりとりを通して各大学の特色やキャラクター、考え方、働き方、リソースの豊富さなどを垣間見ることができ、とても面白いです。ただの一連のやり取りだけでも「この大学はとても働きやすそうだな、人を大切にしているな」と感じられたり、一方「ここで働いたらちょっと大変そうだな…」と予想できたり。とても貴重な機会だと感じています。おそらく次の報告書の時期には就職先が決まっていると思うので、報告させてください。

今回のご報告は以上になります。いつも温かいご支援ありがとうございます。心から感謝しております。これからも日々頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

塩田佳代子

Kayoko Shioda, PhD, DVM, MPH

kayoko.shioda@aya.yale.edu; kayoko.shioda@emory.edu